

「総ぐるみ」新聞

総ぐるみ福祉の会で働く、「ヘルパーさんの声」

助け合いの輪の広がりを願って

種族維持の本能から親が子を外敵から守り、慈しみ育てることは総ての動物に見られる行動です。しかし、弱者をいたわり、人間同士助け合う行為は、人間だけが行う、人間だから出来る、最も人間らしい行為でしょう。素晴らしい環境に恵まれた、一見平和なこの日限山も、高齢化の進行とともに家庭内では、時として様々な問題が発生してくることは否めません。

総ぐるみ福祉の会のメンバーは、お声がかれば、問題解決にあたり、利用者の方々の安心や安らぎをわが喜びとすべく、活動をしています。「元気なうちは少しのお手伝いを、困ったときは気兼ねなく助けてもらおう」
こんな輪の広がりをメンバー一同願って活動しています。

利用者さんの要望を

聞くことが出来るか？

利用者さんの要望が、すべて介護保険の対

象となるとは限りません。そこで、

介護保険の対象になるサービスについて
介護保険の対象にならないサービスについて

この二点について利用者さんに明細を提示し、了解をいただいで初めて私達は活動します。介護保険活動は、介護保険法に基づいて活動を行うことを、利用者さんに理解していただくことから始まるのです。

日常の常識ではなんでもない作業が、介護保険法では介護の対象にならないという事例がたくさんあり、ヘルパーとして、管理者として悩む事が多々あります。利用者さんに説明することがとても難しいのです。

「ありがとう」の一言

今年の春が過ぎて、ヘルパーの活動をして四年になります。様々な利用者さんの所へ行って、ほんとうの勉強をさせていただいています。私自身高齢代に近づくのですが、人生の先達の皆様の介護をさせていただいています。「ありがとう」の一言で、いつも疲れが消える思いです。

NPO総ぐるみ福祉の会 事務所は日限山4-44-23の宮崎宅です。入会や活動等については、宮崎浩子(844-7477)、増澤喜一郎(842-9084)、大橋綾子(823-2363)、菅沼永子(844-9193)、米川満寿子(81-9433)、菊地幸子(841-4862)に。
「日限山荘」でも受け付けています。

編集：藤井香代

NPOについて(その3) (にえだ)

NPO法人(特定非営利活動法人)の「非営利性」と「ボランティアとの関係」について記してみます。

非営利性について

NPO法人だからといって、収益を上げることが禁じられているわけではありません。ただし、収益が上がった場合は、その収益はNPO法人の非営利事業のために使用するもので、会社のように利益配分することは禁じられています。

ボランティアとの関係について

NPO法人は、ボランティアで構成されることが求められているわけではありませんが、大部分のものは、ボランティア活動を基盤としています。

ボランティア活動は、阪神淡路大震災以来多くの人に光と勇気を与え、参加者も増えています。NPOなりNPO法人が発展するためには、継続的で地道なボランティア活動の拡充が大切になります。

ボランティアの人々のエネルギーが、どう引き出されていくのか、雇用契約の中の縦型構造の組織ではない、新しい運用形態を生み出せないのか、多くの模索が行われています。

利用者さんの細かい気の遣われ方に涙が出ることもあります。たとえば、リユーマチで寝たきりの方が、うまく便が出た時など「くさいですよ、ごめんね」といってくださいます。私は「よかったね、便秘が治って！うれしいよ」といいます。また、お掃除に行くと「汚くして悪いね」。病院へ行く時「ありがとう、手を引いてくださって」など。

本当に「ありがとう」ってうれしい言葉です。

「心に寄り添う」介護

石井 瑞代

(元ヘルパー)

二〇年ほど前、私が仕事を始めた頃、在宅福祉という言葉がとても新鮮な響きを持っていました。「その本当の意味は何だろう」と模索しつつ、頼れる先輩もいないため、戸惑いながらの出発でした。機会を見つけては、福祉関係の講演会や勉強会に、仲間とよく出かけたものです。

そして、福祉とは「喜びをとどめる」、つまり、サービスを受ける側とそれを行う側が、共に幸せと喜びを感じることを学び、その意義を胸に刻んで仕事をしてきました。

信頼関係の構築……訪問先の方々との意志や感情の交流が深められ、信頼関係を築きながらの援助は、生き生きとしたものになってお互いの喜びとなるものだ、強く感じます。この仕事の醍醐味ともいえるでしょう。表面上の言葉や態度、表情のその奥にある気持ちを察し、感じ取る事の大切さも教えられました。場合によっては、相手が話したくなるまで待つ心が必要です。また、人と接する仕事を通して、自分の長所や欠点もさらけ出される思いがします。

人との交流が苦手な心に病のある方を担当した時は、他人が家の中に入ることに慣れてもらう意味からも、最初は静かにアイロンかけをする事

から始めて、つらい気持ちの傾聴を続け、しだいに必要な仕事を増やすようにしました。

長期にわたる活動……この広い世界で、縁あって共に過ごす時間を「今日会えてよかった」と、お互いに思える日となるように、毎日の活動の中に祈りを込めます。そして、長期活動には、たとえ一つでも援助目標を持ち続け、よい方向への変化を願いつづけることが、自分自身の励みであり、利用者への愛情でもあると思います。決してあせらず諦めず、ふと気づくと何らかの実を結んでいるという、嬉しい経験もできました。後悔や反省もないわけではありませんが、願えば叶うのも本当でした。あう

臨時の活動……一日限りの臨時の仕事もまた楽しいものです。どんな方と出会えるのかな？「お目にかかるのをとても楽しみにして参りました。初めて伺い、教えていただくことがいろいろ多くてお疲れになるでしょうが、どうぞよろしくお願いします」と挨拶します。相手の緊張が少しずつほぐれていくのがわかります。気持ちを交わし、限られた時間に「共に逢えてよかった」の言葉で結ぶ、まさに真剣勝負の気分を味わいます。順調に終了したときの爽快感はまた格別です。

気分転換の必要性……利用者さんと共に、ヘルパー自身の気分転換も、とても大切です。私はできるだけ自然を感じたいと努めています。四季折々の木々や花、小鳥の声、風、空の青さなどに

ふれるだけで、心が和みます。帰りの車中から眺める真っ赤な夕日は、明日への元気をくれるようです。また、音楽も一日の疲れを癒してくれます。利用者さんのお宅に伺う時も、道端のたんぽぽや野の花を携えて行ったり、散歩介助のときなどに、一緒に自然を感じていただけられるように心を配ります。お互いに素直な気持ちになれそうです。公園でお弁当をいただいたり、木漏れ日の下で風に吹かれたりするのを楽しめるものです。また、お庭の自然を感じられるようなベッドの位置を提案したこともたびたびありました。

私の介護体験から……臨時で、四〇歳代のほとんど植物状態の女性をお訪ねした時のことです。庭に咲いた山茶花を一輪サイドテーブルに飾ってみました。お花が咲きましたよ」と声をかけると、じつと見つめて、涙を流された事が忘れられません。

また、素敵に母性を残されている重度の認知症のおばあちゃま、子どもと触れ合える公園や下校の道を選んで、一緒に童謡を歌いながら歩いてみます。そうすると目がキラキラと輝き、とてもやさしい表情を見せてくれました。

つらい言葉を投げかけられて、心落ち込む時もありますが、次に伺うときは、自分を真っ白にして伺うことを心がけて過ごしています。また、不注意から利用者さんに怪我をさせてしまった時など、家族の方から、自分を責めちゃダメよ。家族がやっても同じことが起るのよ」という温かい言葉で、救われ、励まされました。